20221127　　猪高の森自然観察会　2022 年 11 月報告書

猪高の森自然観察だより　11 月号

開催日時:2022 年 11 月 27 日(日)　9:30～12:00
天候:晴　　気温:最低 10. 9℃、最高 18. 9℃(名古屋に於いて)
テーマ:紅葉と生き物たちの冬支度
参加者構成：一般 17 名（内 NACS－J 指導員 2 名）
コース予定:森の集会所 → 枕木道 → イベント会場 → すり鉢池 → アーチェリー場横の道 → 森の集会所

ここしばらくは秋らしい天候が続いています。11月は例年より気温の高い傾向が続いています。渡り鳥の飛来も遅くなっているようです。予報では、12月になると寒気団が訪れ、急に温度が下がるとのことでした。
画像は猪高の森以外で撮影したものも含みます。

〇赤い実の味はいかが？

左は、**クロガネモチ**の実。あまりおいしいとは言えません。右は、**ムラサキシキブ**の実。
参加者の方々には、左の実を最初味わっていただき、口直しに右の実を味わってもらいました。ムラサキシキブは少し甘味があります。
赤い実は鳥が見つけやすいように、この色をしています。鳥に食べられることで、種を運んでもらうためです。しかしながら、余りおいしくはありません。一羽の鳥に沢山食べられないようにそうなっている、とされています。(実際の鳥の味覚は、彼らに尋ねてみないと分かりませんが・・。)
虫たちは一部を除いてこの赤い色は判断できないとされています。そのかわり、紫外線は見えるとのことです。

〇葉痕(ようこん)はこの3種を見ました。
道すがら代表的な3種の葉痕を観察しました。皆さん、こっちの方が可愛いとか、あっちの方が私の好みとかいろいろです。葉の落ちた後の模様だけでもたのしめます。

左は、集会所の広場にある**センダン**の樹の葉痕です。
センダンは背の高い樹なので上の方に葉が付き、中々見ることができませんが、低い位置に一本枝を伸ばしていました。SF に出てくる宇宙人に似ていると思いますが、どう思われますか？

左は**クズ**、右は**オニグルミ**の葉痕です。ウサギとヒツジに見えませんか？

クズは緑地内のあちこちに、オニグルミはすり鉢池畔にあります。

顔の模様を作っているのは、維管束痕（いかんそくこん）で葉が付いている時の水や養分を運んだ管などがあった場所です。

〇丸いキノコ・ホコリタケの仲間

左右2枚ともエリマキツチグリです。よく似た種類にツチガキがあり、その違いは、めくれた外皮の内側にひび割れがあるのがツチグリ、つるっとした感じがツチガキです。

でも、両種は違う仲間とのことです。

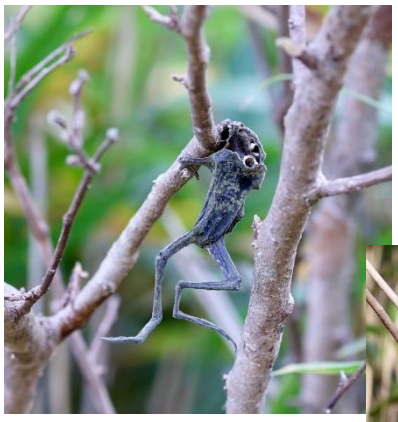
キツネノチャブクロの幼菌（左）、成長した姿（右）です。

成熟すると頭（？）のてっぺんから、ぶわーと胞子を飛ばします。見つけたら突いてみて下さい。漢字なら「狐の茶袋」、地面から生え、別名：ホコリタケ。

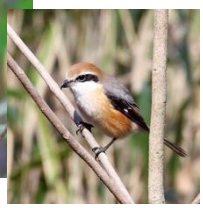
よく似た仲間に「**タヌキノチャブクロ**（狸の茶袋）」があり、これは、枯れ木や切り株から生えるとのことです。

〇虫や鳥たちも冬の準備を始めています

棚田のハンノキの幹にある窪みに集まった**ヨコヅナサシガメ**たち。ちょっと分かりにくいですが、沢山集まっています。昨年と同じ場所なので、ここが越冬するのにお気に入りの場所なのでしょう。



棚田で見つけた「**モズ**のはやにえ」です。これは、カエルでしょうか。モズのオスは、これから春先にかけてはやにえを作り、春の求婚期にむけて、栄養状態を良くするための食料確保に勤めます。メスを引き付けるための「さえずり」を力強く、大きく鳴くには、しっかり食べておかなくてはなりません。



（右下はモズの画像です）

〇この時期に咲く花は？

数少ない冬に咲く花たち。暖かい日には、ハナアブなどの成虫で越冬している昆虫たちが、活動をしています。彼らを狙って咲く時期を今にし、お互いの花を行き来する機会を増やそうとしているのかも知れません。

左は**ビワ**、古代に中国から持ち込まれたと言われています。右は**ツワブキ**、常緑の多年草で若い茎葉を食用に利用でき、園芸用に多くの品種があります。

左は、**ヤツデ**、右は**キヅタ**。両種ともウコギ科の樹です。花は、初めに雄しべが成熟して落ち、その後で雌しべが成熟して花粉を待ちます。

同じ花の花粉が受粉しないようにする仕組みを作っています。

左は、**ヒイラギ**の花。モクセイ科なのでキンモクセイのように良い香りがします。雌雄異株。晩秋に開花し、雌株には春に黒紫色の実が成ります。この時期によく園芸店などに出回る西洋ヒイラギ（クリスマスホーリー）は、春に花が咲き、この時期に赤い実が成ります。モチノキ科で日本のヒイラギとは別の仲間になります。

シダ植物の**フユノハナワラビ**です。株の中心から茶色く出ているのが胞子葉でここで胞子が作られます。この胞子葉があたかも花が咲いているように見えるので、この名がついたとのことです。

冬緑性のシダと呼ばれるこの仲間にはよく似たオオハナワラビがあり、フユノハナワラビは明るい開けたところ、オオハナワラビは山地性によく見られるとされています。

しかしながら、両種が重なって生育しているところもあり、フユノハナワラビは葉の先が丸くとがらず、オオハナワラビはとがると、葉の形で区別するほか方法がないようです。

〇秋色アジサイって知ってる？

秋色アジサイは種類の名ではなく、初夏に咲いた普通のアジサイが気温や日当たり具合などの条件で、枯れることなく秋まで残ったものを言います。

園芸品種には、秋まで残ることを前提に作出された種類もあります。夏場に半日陰で育てると、秋まできれいに残るそうです。

アジサイには江戸時代に長崎の出島にいたシーボルトと彼が愛した日本の女性：お滝さんとのエピソードがありますので、興味のある方は調べてみるとよいでしょう。

写真のアジサイはすべてが装飾花と呼ばれるガクの変化した花びらで覆われた種類です。そのため、種はできません。

〇紅葉と黄葉と褐葉

紅葉は低温になり、葉の葉緑体が分解するにつれて、アントシアニンが新しく作られることにより色づきます。日光とある程度の水分が必要です。（左は**ドウダンツツジ**、右は**ツタ**）

黄葉は、葉緑体が分解するにつれて、葉に元々あった黄色の色素：カロチノイドが目立つようになるために発現します。（左は、**イチョウ**、右は、**タカノツメ**）

褐葉は　葉にタンニンの仲間が含まれていると茶色に近い色になります。実際はこの３色が絡み合って発現するので日当たり具合などの違いで色の程度などが変わってきます。

一本の樹でも左の２点のようにグラデーションがかかり、一枚の葉でも色々な色が、見られることがあります。

紅葉と一口に言っても、変化に富んだ現象です。

〇外来種がまた、ひとつ〈ヒロハフウリンホオズキ〉

アーチェリー場横の道に生えていました。

北アメリカ、熱帯アメリカ原産の1年草です。日本のホオズキと同じナス科ですが、赤く色が変わることはありません。

現在、日本全国に広がり、食べられるが美味ではない、とのことでした。

これ以上増えないようにしたいと思います。

〇小鳥たちが「混群（こんぐん）」を作り始めています

混群とは異なる種類の鳥がひとつの群れとなって行動すること。子育てが終わった小鳥たち（シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、コゲラなど）が冬になり、乏しくなる食料を探すためや、天敵の捕食者を見つけやすくするためなどの説があります。群れは春になり暖かくなると、解消されます。

左はコゲラ、中はシジュウカラ、右はメジロ。

鳥たちの観察を始めようと思われる方は、落葉樹の葉がない冬の時期から始めるのがお勧めです。

〇御嶽山がよく見える季節になりました。塚の杁池からの眺望がお勧めです。

〇12月４日に竹刈体験会がありました。

今年初めて開催した「親子竹林管理体験会」は、親子で切った竹をつかって、「竹ぼっくり」や「鉛筆立て」「けん玉」などを作るまでを行うイベントです。

8家族が参加され、家族みんなのお湯飲みをつくった父子も見えました。けがもなく、楽しい雰囲気のうちに終了しました。

11 月の定例会は他にも

・すり鉢池にいたムネアカハラビロカマキリを使ってのハリガネムシの話
・途中に生えていたシャガの葉の表裏はどっち？
・八重サザンカの花弁は雄しべが弁化してつくられた話

など盛りだくさんでした。

12月は観察会はお休みです。
同じサイトで昨年の 11 月の猪高の森を紹介しています。合わせて参考にしてください。
なるべく毎回異なる内容にしています。

次回観察会は、１月 22 日（日）森の集会所集合　9：30～です。